

教育目標	よく学び、豊かな人間性を身につけた、心身ともにたくましい吉崎っ子の育成
------	-------------------------------------

【項目】                      【重点目標】

【めざす児童像】

- 1 **よ** よく学び、自分で考える子
- 2 **し** しんせつで、思いやりのある子
- 3 **ざ** さいごまでやりぬく子
- 4 **き** きたえ合い、励まし合う子

確かな学力(知)	1 基礎・基本の習得を図る。 2 教育機器を積極的に活用し、学ぶ意欲をさらに育てる。
思いやりの心(徳)	1 一人ひとり存在感のある学級づくりをめざす。 (不登校対策、いじめ防止対策) 2 地域と連動した道徳教育の充実を図る。
やりぬく力(徳)	1 自主的、継続的な活動に粘り強く取り組ませる。 2 農業体験を通して、生きる力を育てる。
健康な体(体)	1 基本的な生活習慣を身につけさせる。 2 自転車練習・マラソン・外遊び等で体力づくりを図る。
総合的学習	1 地域学習の充実を図る。 (オペレッタ発表 等) 2 野鳥観察を通して地域の環境教育に取り組み、充実を図る。
信頼される学校	1 幼・小・中の連携を深め、開かれた学校づくりに取り組む。 2 学校評価を、学校改善に生かす。

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	判定基準	評価者	前期%	後期%	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
確かな学力	基礎・基本の習得を図る。	研究授業を年間2回行い、教師の授業力を高める。	(成果指標) 毎日の勉強にしっかり取り組んできた。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組体制、指導法等を検討する。	児童14	88.2	94.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の興味関心を高めるための教材教具の工夫、児童が自主的に取り組める授業形態の工夫、表現力を養うための手立て、思考力を培うための発問の工夫などを行ってきた。</li> <li>研究授業を年2回以上行い、教師の授業力の向上に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度は、今年度の取り組みを踏まえ、更なる授業力向上のため研究授業の充実、教材研究の推進に努める。</li> <li>「学校に来るのが楽しい」児童100%を維持するために、「わかる授業」「おもしろい授業」づくりに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業</li> <li>①興味・関心②自主性③思考力の育成等を図る取組については素晴らしい。更なる研究を継続してほしい。</li> </ul>
			(成果指標) 学校に来るのが楽しい。 【目標指数】 A+Bの合計が100%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が100%未満の場合は、取組体制、指導法等を検討する。	児童15	94.1	100			
確かな学力	基礎・基本の習得を図る。	朝の漢字・計算学習を徹底し、まとめテストで基礎的な学力の定着度を見る。	(取組指標) 朝の漢字・計算学習や「チャレンジテスト」にしっかり取り組ませた。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を再検討する。	教職員1	100	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度よりチャレンジテストを実施した。朝学習の時間を中心に漢字・計算練習を行った。チャレンジテストでは出題範囲を知らせ、合格ラインを設けて自分なりの目標をもち、学習に取り組ませた。</li> <li>日常会話の中でチャレンジテストを意識するような声がかれるようになり、みんなでがんばろうという姿勢がうかがえた。</li> <li>漢字の書き取り・計算練習等の宿題に毎日取り組み、家庭学習の充実を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度も朝の漢字・計算学習や「チャレンジテスト」を基礎基本の習得を図る大事な時間と意識して実施する。</li> <li>日々、個別指導を実施し、児童に「わかる・できる学習の楽しさ」を実感させたい。</li> <li>家庭学習の習慣化や自主的に学習する姿勢が身についていない児童には、保護者の協力もお願いする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の漢字・計算学習チャレンジテストの取組は、スキルアップに繋がりが好ましい。継続してほしい。特に、つまづくことが多い児童には適切に支援をお願いしたい。粘り強く努力することの大切さをしっかり自覚させ、家庭とも連携を図りながら、児童全員のスキルアップにつなげる取組にしてほしい。</li> <li>タブレット型端末の活用少人数での学習を展開する上では、効果的な活用が期待できる。研究を継続していただきたい。また、今や社会人にとって仕事上必須となっているものであり、子どもの頃から慣れさせておくのは、非常に良い事と考える。</li> </ul>
			(成果指標) 朝の漢字・計算学習や「チャレンジテスト」にしっかり取り組むことができた。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組体制、指導法等を検討する。	児童1	88.2	94.1			
			(満足度指数) 子どもは、漢字・計算学習や「チャレンジテスト」に関わる学習によく取り組んでいた。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、家庭との連携強化策等を検討する。	保護者1		53.8			
確かな学力	教育機器を積極的に活用し、学ぶ意欲をさらに育てる。	タブレット型端末を効果的に使った授業の促進。	(取組指標) 教育機器(タブレット型端末など)を使った授業を展開し、学習指導に生かすことができた。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を再検討する。	教職員2		75	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末を効果的に使った授業の促進に努めた。</li> <li>児童は機器操作を通して多くの情報を整理しながら提示したり発表(表現)することに意欲的になった。</li> <li>保護者の満足度が目標指数に達していないが、タブレット端末を活用した授業公開等が不足していたのではないかと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年(初年)度の取組をふまえ、さらなる使用方法の研究や工夫、学習効果の高い専用ソフト探し、タブレット端末を使った研究会や講習会への参加、児童への取り組みせ方の工夫などを推進する。</li> <li>児童には利便性の高い身近な教育機器として有効活用させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年(初年)度の取組をふまえ、さらなる使用方法の研究や工夫、学習効果の高い専用ソフト探し、タブレット端末を使った研究会や講習会への参加、児童への取り組みせ方の工夫などを推進する。</li> <li>児童には利便性の高い身近な教育機器として有効活用させていく。</li> </ul>
			(成果指標) 授業で楽しく教育機器(タブレット型端末など)を使い、勉強ができた。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組体制、指導法等を検討する。	児童2		100			
			(満足度指数) 学校は、子どもの学力向上のために教育機器(タブレット型端末など)を積極的に活用している。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、家庭との連携強化策等を検討する。	保護者2		69.2			

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	判定基準	評価者	前期%	後期%	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価	
思いやりの心	一人ひとり存在感のある学級づくりをめざす。	「いじめ防止基本方針」に則り、いじめの未然防止に努める。	(取組指標) 日々の活動を通していじめの未然防止に努めることができた。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を再検討する。	教職員3	100	100	・「心のお天気調べ」を実施したり、休み時間に教員が児童と一緒に遊んだりして、児童の声を聞くように心掛けた。 ・保護者からの声にはすぐに対応したり、気になることは保護者と一緒に考えたりした。	・担任が一人一人の児童と話し合う取り組みを継続していく。また、自己肯定感や自己有用感をもつことができる学級経営に努める。 ・今後も全職員が研修を行い、児童の心の声に寄り添える体制を充実させる。	・2人であろうが30人であろうが毎日の生活にはぶつかり合いが起きると思うが、外からはいじめの声は全く聞こえないし、計画的に意識してきちんと指導が行われているのがわかる。今後もいじめ防止の取組を着実に進めていただきたい。  ・少人数のため限られた人間関係の中で関係がこじれると取捨がつかなくなることが予想される。家庭とも連携をとりながら油断することなく取り組んでいただきたい。	
			(成果指標) 毎日の学校生活で、いじめをしない・させない・見て見ぬ振りをしない生活が送れた。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組体制、指導法等を検討する。	児童3	88.2	100				
			(満足度指標) 子どもは家庭で学校や友だちのことをよく話してくれる。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、家庭との連携強化策等を検討する。	保護者3		92.3				
	「パーソナルポートフォリオ」を保護者会に生かす。	一人ひとり存在感のある学級づくりをめざす。	「パーソナルポートフォリオ」を保護者会に生かす。	(取組指標) いろいろな活動の後に「ポートフォリオ」を通して自己評価させ、自らの成長を確かめさせていく。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を再検討する。	教職員4	66.7	66.7	・いろいろな活動の様子を「ポートフォリオ」に綴り、自分自身の成長の跡を残すことはできたが、それをしっかりと振り返らせることはできなかった。 ・保護者会で児童の成長を伝えるために「ポートフォリオ」を活用できた。	・学年に応じたポートフォリオの綴り方を工夫する。 ・今後も児童の感想や作品等をポートフォリオに綴っていく。「ポートフォリオ」を見ながら自分を振り返り成長を確かめる時間を定期的に作る。	・「ポートフォリオ」は自分との対話となる取組。この実践で培われる力は社会人になってからも生きる。過去、現在、未来へと自己向上を図る取組は、小学生には難しい要素を多分に含んでいるが、できることから少しずつ積み上げ、個々の特性を伸ばす取組として実践を継続してほしい。
				(成果指標) いろいろな活動の後に「ポートフォリオ」ファイルを見て、自分を振り返り、成長を感じることができた。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組体制、指導法等を検討する。	児童4	88.2	100			
				(満足度指標) 子どもの「パーソナルポートフォリオ」ファイルを見て、わが子の成長を感じることができた。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、家庭との連携強化策等を検討する。	保護者4		92.3			

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	判定基準	評価者	前期%	後期%	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
思いやりの心	地域と連動した道徳教育の充実を図る。	地域の人・歴史・自然を活用した道徳を実践する。	(取組指標) 吉崎の語り部を招聘した道徳授業の展開を図り、地域の人・歴史・自然を活用した道徳教育の指導に取り組む。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を再検討する。	教職員5	75	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学習として今年には整備された吉崎古道を歩き、吉崎の歴史を感じることができた。先人の努力や足跡を探ることで興味を持って学習に取り組むことができた。</li> <li>・道徳の中で、人、歴史、自然を活用した学習を通して思いやりや感謝の心を育むことができた。</li> <li>・地域の行事や活動に子どもたちは積極的に参加している。授業で振り返ることにより地域の人たちに対する思いは深くなっていると感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学習は郷土愛を深める上で重要なので、来年度も機会を捉えて取り組んでいく。</li> <li>・体験学習にとどまることなく、道徳的心情の高揚を図ることを意識して行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の歴史や自然を掘り起こし実際に体験させることで思いやりの心だけでなくいろいろな心が育ち世界が広がっている。</li> <li>・あわら市内で唯一の国指定史跡のある地元の歴史を勉強して「地域愛を育てる」取組を今後も充実させてほしい。</li> </ul>
			(成果指標) 地域の人・歴史・自然の学習を通して、思いやりや感謝の心を育む。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組体制、指導法等を検討する。	児童5	94.1	100			
			(満足度指標) 子どもには、地域の人・歴史・自然の学習を通して、思いやりや感謝の心が育まれている。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、家庭との連携強化策等を検討する。	保護者5		92.3			
やりぬく力	自主的、継続的な活動に粘り強く取り組ませる。	「がんばりの花」の取組みで、自己目標の達成できる子を育てる。	(取組指標) 児童の日々の生活において、「がんばりの花」で意識を高めさせ、目標の達成度を確認する。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を再検討する。	教職員6	100	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校集会で毎月の生活目標について話し、一人一人に具体的取組を決めさせた。月末には、取組の反省をし、自分を振り返らせることができた。</li> <li>・保護者に、児童の毎月の取組と振り返りを伝えていないのが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き自分で目標を立てて取り組み、振り返る活動を継続させながらやりぬく力を育てていく。</li> <li>・保護者に、月毎の児童の取組と振り返りを知らせ、家庭の協力も得るようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き児童個々の能力に応じた適切な目標設定が毎月できているか、チェックをきちんとお願いしたい。</li> <li>・がんばった結果として目標達成した場合、認める、ほめる、励ますことを今後もしっかり行い、児童に自信をつけさせてほしい。</li> </ul>
			(成果指標) 日々の生活において、毎月の生活指導目標を意識し、「がんばりの花カード」に書いて達成度を確認することができた。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組体制、指導法等を検討する。	児童6	88.2	94.1			
			(満足度指標) 子どもは、自分自身の生活態度をしっかり振り返ることができるようになった。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、家庭との連携強化策等を検討する。	保護者6		69.2			

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	判定基準	評価者	前期%	後期%	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
やりぬく力	自主的、継続的な活動に粘り強く取り組ませる。	進んで係活動を行う子、後始末のできる子を育てる。	<p>(取組指標)                      児童が積極的に係活動や後始末に進んで取組むことができるよう、意識を高めていく。                      【目標指数】                      A+Bの合計が90%以上</p>	<p>評価者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合は、改善策等を再検討する。</p>	教職員7	100	100	<p>・学級や委員会等の係活動をきちんと行っている児童には、声かけをし次の活動への意欲づけを図った。                      ・直面している場面において、具体的に何をしたらよいか自分で考えて行動する力に課題がある。(今求められている仕事や手伝い等について、気がつかない児童が多い。)</p>	<p>・自分から進んで仕事ができる児童を育むため、一人一人に声をかける。                      ・自己管理能力(忘れ物をしない、自分のことは自分でする等)を育成するために、授業の中で一人一人に後始末や整理整頓をきちんとさせる。また、児童に連絡帳のチェックを徹底させ保護者の協力も求めていく。                      ・「早寝、早起き、朝ごはん」カードのお手伝いの内容を家族にも知らせる。学校と家庭が連携する必要がある。</p>	<p>・一昔より子どもに対して親は過保護になっている。親の意識改革も必要。                      ・児童には辛い場面に出くわした時、自分で這い上がり頑張れる力を身につけさせる必要を感じる。                      ・継続は力なりなので、手伝いや後始末に関わる点検を節目ごとに行い、家庭との連絡を密にし、児童の自主性を促す根気強い取組を積み上げてほしい。</p>
			<p>(成果指標)                      積極的に係活動や後始末にきちんと取り組むことができた。                      【目標指数】                      A+Bの合計が90%以上</p>	<p>評価者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合は、取組体制、指導法等を検討する。</p>	児童7	82.4	94.1			
			<p>(満足度指標)                      子どもは、家庭ですすんでお手伝いをしたり、後始末をしっかりとできるようになってきた。                      【目標指数】                      A+Bの合計が90%以上</p>	<p>評価者のAまたはBと判断した割合が90%未満の場合は、家庭との連携強化策等を検討する。</p>	保護者7		46.2			
	農業体験を通して、生きる力を育てる。	農業体験を通して、優しい心や、粘り強い心を育てる。	<p>(取組指標)                      学級農園や花壇での作業に意欲的に取り組み、優しい心を育てるとともに、粘り強い心を育む。                      【目標指数】                      A+Bの合計が100%</p>	<p>評価者のAまたはBと判断した割合が100%でない場合は、改善策等を再検討する。</p>	教職員8	100	100	<p>・学級で取り組んだ花や野菜の世話はしっかりできた。収穫の喜びも大きかった。                      ・全校で取り組んだ野菜については最後まで世話ができなかった。</p>	<p>・引き続き、学級園等を有効活用して計画的に農業体験ができるよう取り組み、苦労した後の収穫の喜びを実感させる。                      ・学校全体の野菜づくりや花壇の世話は適正規模にしていく。</p>	<p>・農作業を通して、その大変さや育てる楽しみだけでなく、野菜がどのように育っていくか自然環境の影響なども学習できていて良かった。</p>
			<p>(成果指標)                      花壇や農園の花や野菜の世話(水やりなど)がしっかりできた。                      【目標指数】                      A+Bの合計が100%</p>	<p>評価者のAまたはBと判断した割合が100%でない場合は、取組体制、指導法等を検討する。</p>	児童8	100	94.1			
			<p>(満足度指数)                      学校は、農業体験学習を通して、豊かな心の育成によく取り組んでいた。                      【目標指数】                      A+Bの合計が100%</p>	<p>評価者のAまたはBと判断した割合が100%でない場合は、家庭との連携強化策等を検討する。</p>	保護者8		92.3			

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	判定基準	評価者	前期%	後期%	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
健康な体	基本的な生活習慣を身につけさせる。	家庭と協力し「早寝、早起き、朝ごはん」を実践する。	<p>(取組指標) 生活チェック表を使い、「早寝、早起き、朝ごはん」の習慣づけの大切さを指導する。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上</p>	<p>評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を再検討する。</p>	教職員9	100	100	<p>・毎月3週目にチェックカードをつけることで定期的に自分の生活習慣を振り返られるようにしており、良い変化がみられた児童もいる。 ・高学年のカードには、赤、黄、緑の食品が朝ごはんの中に含まれているか記録する項目を新たに設け、栄養バランスを考えられるようにした。 ・チェックカードがマンネリ化しているという課題がある。もっと積極的な取組となるような働きかけをしていく必要がある。</p>	<p>・学校からの各種便りの発行やアンケート調査を通して、児童の実態を正確に把握する。 ・アンケート結果は、児童の振り返り用のデータとして提示する。 ・家庭との連携を深め、保護者の協力を呼びかける。 ・栄養素分類表や朝食のメニュー例など、児童や保護者に情報を発信していく。</p>	<p>「早寝、早起き、朝ごはん」の取組は、次年度以降もしっかり継続してほしい。家庭との連携を図り、より成果をあげてほしい。</p> <p>・自転車の練習やマラソンなど外からも頑張っている姿が見え、良い成績(結果)が得られて素晴らしい。大満足でした。</p>
			<p>(成果指標) 「早寝、早起き、朝ごはん」がしっかりできた。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上</p>	<p>評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組体制、指導法等を検討する。</p>	児童9	94.1	88.2			
			<p>(満足度指標) 子どもは、「早寝、早起き、朝ごはん」の習慣が身に付いてきた。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上</p>	<p>評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、家庭との連携強化策等を検討する。</p>	保護者9		84.6			
	自転車練習・マラソン・外遊び等で体力づくりを図る。	俊敏性や巧緻性を高める運動遊びを通して、体力の向上をはかる。	<p>(取組指標) 日常的な運動などで、体力向上につながる指導に取り組み、体力テストの点数が前年度を上回る児童を多く育成する。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上</p>	<p>評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を再検討する。</p>	教職員10	100	100	<p>・パワーアップタイムを利用し、いろいろな運動に取り組みさせることができた。 ・自転車練習に熱心に取り組み、技能が高まった。 ・高学年の8割が前年度の体力テストの点数を上回っているが、上体起こし、ソフトボール投げの点数が低い。</p>	<p>・筋力、投力を伸ばす運動を体育の時間や休み時間に取り入れる。 ・アクティブワンカードを利用し、運動に意欲をもたせる。</p>	
			<p>(成果指標) マラソン練習、自転車練習(高学年)、外遊び(低学年)にしっかり取り組めた。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上</p>	<p>評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組体制、指導法等を検討する。</p>	児童10	100	100			
			<p>(満足度指標) 子どもは、マラソン練習、自転車練習(高学年)、外遊び(低学年)に、一生懸命努力(挑戦)をしている。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上</p>	<p>評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、家庭との連携強化策等を検討する。</p>	保護者10		100			

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	判定基準	評価者	前期%	後期%	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
総合的学習	地域学習の充実を図る。	地域の昔話をオペレッタで発表する。	(取組指標) ふるさとのよさを知り、ふるさに誇りを持つ児童を育成するために、地域学習に取り組む。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を再検討する。	教職員11	100	100	・今年で6回目となるオペレッタは「腹ごもりの聖教」であった。事前にゲストティーチャーを迎え、本光坊の話を読み、話をより身近なものとした。練習を重ねる毎に演技が上達し、どの学年の児童も一生懸命取り組むことができた。本番ではたくさんの方の前で発表できたこと、吉崎にまつわる話を伝えることができたことで、充実感と達成感を味わうことができた。地域のことを知る、また知らない人たちに地域のことを発信することは「地域再発見の場」となり有意義であった。	・限られた時間の中で練習を進めていくための工夫をする。	・吉崎小学校が総合的学習で取り組んでいる実践は、すべて自分の住む地域に誇りを持ち、そのすばらしさを発信できる人材の育成に繋がっている。  ・地域の昔話を題材にしたオペレッタ発表は、吉崎小学校ならではの取組で大変素晴らしい。また小学1年から小学6年生まで全員が取り組んでいることが大変良い。地域の人々も毎年楽しみにしていて大きな感動をもたらしている。
			(成果指標) オペレッタの発表(第6話)にしっかり取り組んだ。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組体制、指導法等を検討する。	児童11	100	100			
			(満足度指数) 学校は、地域学習を通して、ふるさに誇りを持つ児童の育成に取り組んだ。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、家庭との連携強化策等を検討する。	保護者11		100			
	野鳥観察を通して地域の環境教育に取り組み、充実を図る。	野鳥観察を定期的に行い、北潟湖周辺の生き物の環境について調べたりまとめたりしてお便りで地域に発信する。	(取組指標) 野鳥観察会(56年)の学習や環境クラブ(56年)の活動等を通して、地域の環境に関心を持たせる取り組みを実践していく。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を再検討する。	教職員12	100	100	・豊かな自然が残るこの地域にどんな野鳥が生息しているのか、ゲストティーチャーの協力を得て活動を展開することができた。吉崎、浜坂地区のつばめ調査、御山等の定点観察、水辺の野鳥観察を行い、わくわくフェスタでは保護者や地域の方に活動を発信することができた。	・ゲストティーチャーとして地域の方の協力を得ながら、来年度も取り組めると良い。 ・次年度は総合の中心課題を「吉崎校下の歴史」とし、年配の方を語り部に依頼して「吉崎・浜坂歴史探訪」として集約する活動を行う。 ・この地を守っていききたいという児童に育てるべく、身近なところから活動に取り組んでいく。 ・学習のまとめを地域に発信する場を設けていく。	・野鳥観察を定期的に行い、北潟湖周辺の生き物の環境について調べたりまとめたりする学習は、総合学習の対象としては、大変良かった。自然環境・地域の人との触れあい・チームの団結等あらゆる要素が入っていて、素晴らしい。
			(成果指標) 野鳥観察会(56年)の学習や環境クラブ(56年)の活動等を通して、地域の環境について考えることができた。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組体制、指導法等を検討する。	児童12	100	100			
			(満足度指数) 学校は、野鳥観察会(56年)の学習や環境クラブ(56年)の活動等を通して、子ども達が地域環境を守ろうとする意識を高めてくれた。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、家庭との連携強化策等を検討する。	保護者12		100			

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	判定基準	評価者	前期%	後期%	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
信頼される学校	幼・小・中の連携を深め、開かれた学校づくりに取り組む。	幼・小・中の連携、地域の行事に積極的に参加する。	(取組指標) 幼・小・中連携事業に取り組み、地域の行事に積極的に参加していく。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を再検討する。	教職員13	80	100	・児童はおおむね地域で行われる行事への積極的な参加姿勢が見てとれる。	・児童の地域行事への参加状況の良否は家庭によるところが大きいので、様々なツールを用いて各家庭へ協力を呼びかける。地域をあげてこどもの健全育成及び伝統や文化の継承が図れるように学校としても協力し地域貢献していく。	・学校は地域の信頼に答えている。そして地域との交流もできていて、その中に子どもも良く参加している。  ・学校・学級だより・HPを通しての情報発信のあり方は、年間通して適切であった。
			(成果指標) 地域で行われる行事に参加して、地域での交流がよくできた。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、取組体制、指導法等を検討する。	児童13	100	94.1	・地域行事への参加意識を高く持ち、校下の児童の様子、地域の活動についてアンテナを高くして察知しながら、学校としてできる関わり方で地域に精一杯貢献できた。		
			(満足度指標) 子どもは、地域の行事に進んで参加することができた。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、家庭との連携強化策等を検討する。	保護者13		100	・幼・小・中の連携事業は校下の特性を考慮しつつ無理のない形で進めることができた。		
	学校・学級だより・HPを通して、情報発信を行う。	学校・学級だより・HPを通して、情報発信を行う。	(取組指標) 学校での子ども達の活動の様子を「学級だより」やホームページで保護者にしっかり伝えていく。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を再検討する。	教職員14	80	80	・今年度HPにブログを開設し、学校での活動の様子をよりわかりやすくすばやく伝えることができた。	・引き続き来年度も児童の活動の様子がわかるHP・学級だよりをめざす。	
			(満足度指標) 学校だより(万華鏡)や、学級だより、ホームページ等で、子どもの様子がよくわかった。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、家庭との連携強化策等を検討する。	保護者14		100	・HPを行事毎に改め早く更新した。	・学校だより「万華鏡」の内容を充実させる。	
	学校評価を、学校改善に生かす。	地域学校協議会による学校評価を、学校改善に生かす。	(取組指標) 学校評価を通して、教育活動全般の改善に努め、保護者・地域の協力のもと、積極的に学校づくりに取り組む。 【目標指数】 A+Bの合計が80%以上	評価者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を再検討する。	教職員15	100	100	・目標指数を超え100%達成となっている。	・引き続き学校評価の取組を通して学校改善に努め、保護者、地域の協力を得て積極的に学校づくりに励んで行く。スクールプランに基づき、適切な評価項目に改正しながら行う。	



項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	判定基準	評価者	前期%	後期%	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
2学期制	授業時数の確保を心がけ、時間をかけた丁寧な指導を行う。	(取組指標) 楽しくわかりやすい授業を行うとともに、今まで以上に時間をかけるよう心がけている。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を検討する。	教職員16	100	100	・目標指数を超え100%達成となっている。	・二学期制移行により生まれた有効な時間を積極的に授業時数に組み込み、より丁寧な指導の時間として活用していく。	・少人数だからできること、少人数であるためにできないことがあると思うが、先生方の工夫、多大な労力で子どもたちは色々な体験ができ、それが実を結び「幸せ」だと思う。地域に関わる者として、たくさんの感動をいただきありがたかった。	
		(成果指標) 先生は、楽しくわかりやすい授業をし、時間をかけて教えてくれる。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を検討する。	児童17	100	100				
		(満足度指標) 学校は、一人ひとりを大切にしたいわかりやすい授業を行うなど、授業改善に取り組んでいる。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を検討する。	保護者15		100				
	児童生徒と触れ合う時間を増やし、きめ細やかな対応を心がける。	(取組指標) 日常の対話により児童生徒の実態を把握するように努め、きめ細かな対応を行っている。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を検討する。	教職員17	100	100	・概ね目標指数を超え十分な達成となっている。	・二学期制移行による生まれた時間的な余裕を有効に活用し、今以上に児童とふれあう時間の確保やきめ細やかな対応に意を注ぐ。	・今年度の学校行事が中学校と重なり、十分に参加できなかった。行事を組むにあたり可能な範囲で小中の学校間連携をはかり、今後はせめて時間をずらすなどの配慮をお願いしたい。	
		(成果指標) 先生と、学習や生活について話をする機会が多かった。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を検討する。	児童18	100	88.2				
	2学期制のメリットを生かした教育活動を実践する。	事前指導を丁寧に行い、長期休業を学期の途中として取り組むための効果的な手立てを講じる。	(取組指標) 長期休業を「学期の途中のもの」とし、休業中の支援を意図的・計画的に行っている。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を検討する。	教職員18	60	80	・二学期制そのものが今年度初の取組であったため、長期休業を迎えての学習課題の提示や学習計画性等において教職員・児童ともに意識改革が不十分なところが散見された。後半は反省を生かす取組ができ教職員・児童ともに指数の上昇をみた。	・長期休業中だからできることを各家庭で考えてもらい、親子での話題を充実させる。  ・保護者には、長期休業中、家庭での学びや行動について子どもの健全育成の第一義的責任者としての自覚を促す働きかけをする。	
			(成果指標) 夏休みや冬休みは、計画的に課題に取り組むことができた。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を検討する。	児童19	88.2	100			
			(満足度指標) わが子は、夏休みや冬休みの期間は計画的に課題に取り組んでいる。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を検討する。	保護者16		69.2			

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	判定基準	評価者	前期%	後期%	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
		学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童生徒や保護者に対して丁寧な説明を行う。	(取組指標) 児童生徒や保護者に対して、学習や学校生活の様子を丁寧に伝え、共通理解を図っている。	回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を検討する。	教職員19	100	80	・教職員・児童・保護者いずれも概ね目標指数を上回っており目標達成している。	・今後も二学期制への移行による不都合な点(マイナス面)が生じないよう、今以上に児童の学習指導をはじめ保護者への説明責任をしっかりと果たし手厚いケアに心がける。	・2学期制の活用についてよく検討されている。二学期制による長い学習期間の長所を生かしつつ、スモールステップの一段階として前期・後期の区切りの秋休み等を有効に使い、反省と適切な評価(承認等)で後期に向けて子どもの成長をしっかりと促す取組をしていたきたい。
	(成果指標) 先生との面談や振り返りにより、学習や生活の様子について考えることができた。		回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を検討する。	児童20	88.2	94.1				
	(満足度指標) 個人懇談や通知表により、子どもの学習や生活の様子について詳しく知ることができた。		回答者のAまたはBと判断した割合が80%未満の場合は、改善策等を検討する。	保護者17		100				